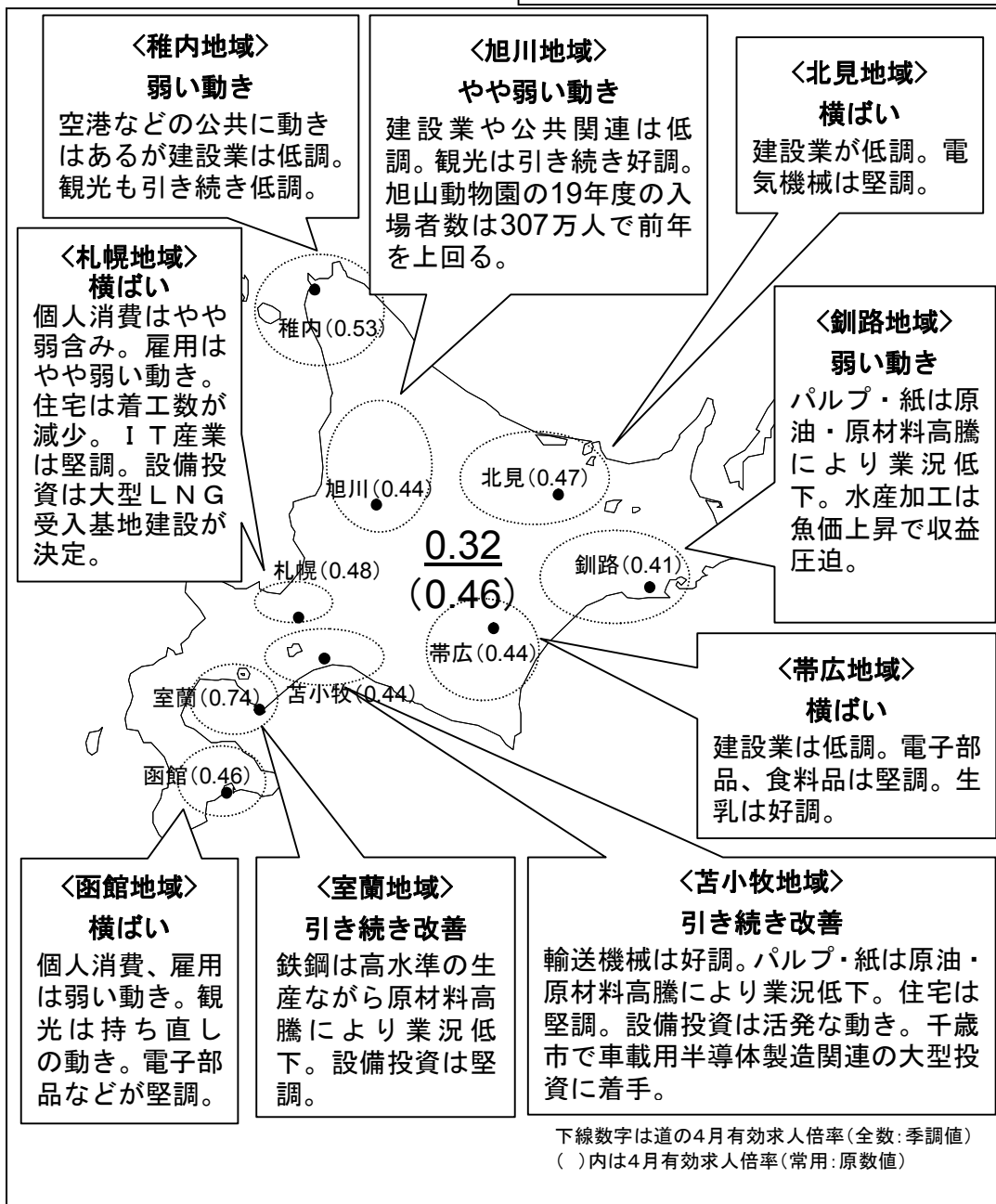


## 第 2 4 回地域経済産業調査結果の概要（地域別）

# 北海道経済産業局管内の経済動向



北海道地域の経済は、概ね横ばいで推移しているものの、一部に弱い動きがみられる。

## 1. 全体の動向

業況は、一部に好調な業種があるものの、原油・原材料の高騰による収益等への影響が強まっており、全体で見ると厳しさが増している。  
雇用、個人消費はやや弱含み、生産は横ばいながら一部に弱い動き、観光は横ばい、設備投資は概ね堅調な動きとなっている。

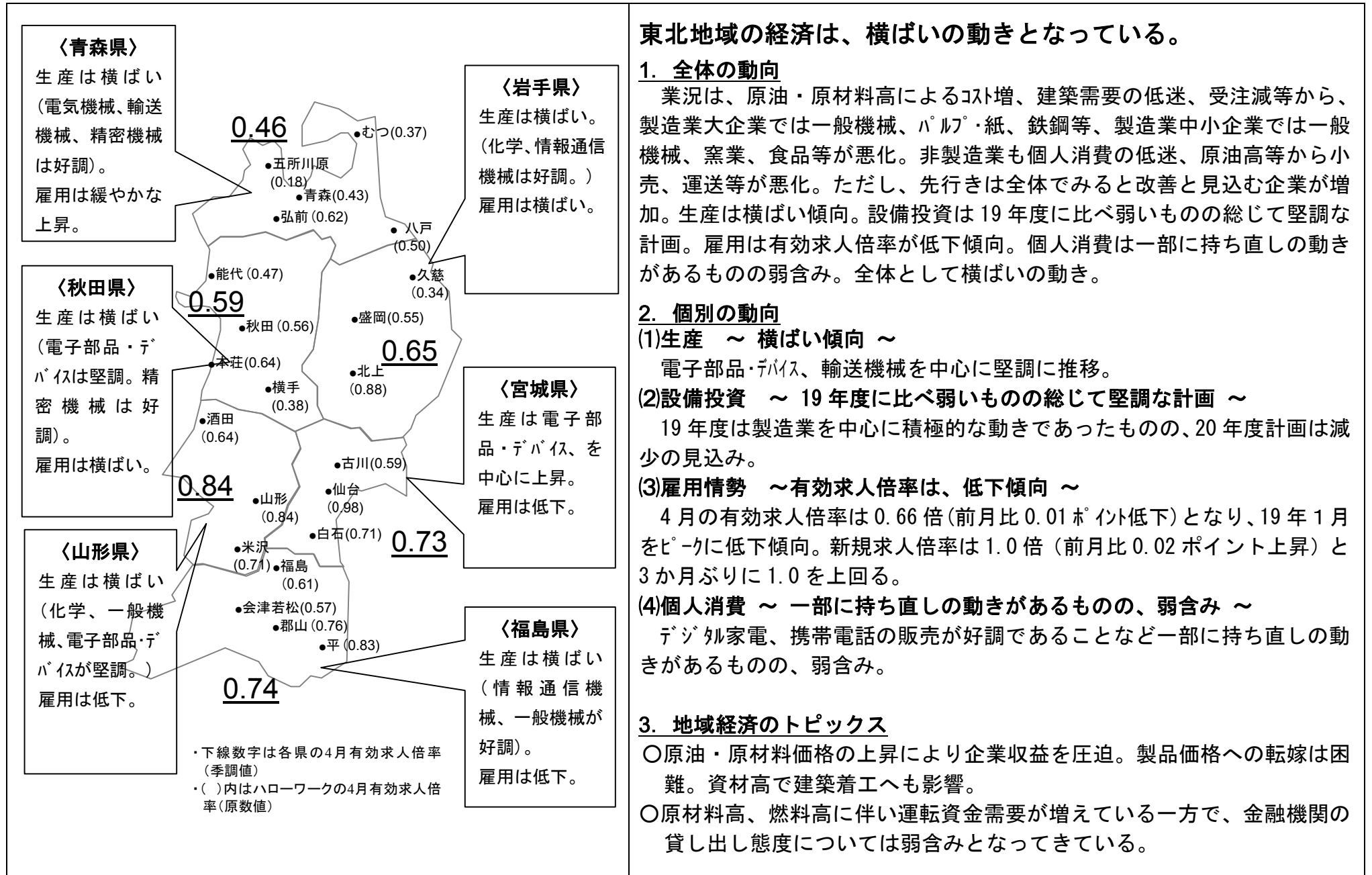
## 2. 個別の動向

- 生産** ～ 横ばいながら、一部に弱い動き～  
輸送機械や電気機械、鉄鋼業は高水準で推移。一方、公共事業の減少に加え、民間の住宅建設の回復遅れもあり金属製品、窯業・土石は低水準で推移。
- 設備投資** ～ 概ね堅調な動き～  
輸送機械、一般機械で大型投資が本格化し、電子部品や環境・エネルギー関係で能力増強の投資が続いているほか、廃棄物利用ボイラーなど環境対策への投資が活発化。
- 雇用情勢** ～ やや弱い動き～  
月間有効求人倍率は0.46倍(常用)で10ヶ月連続低下。前年同期比では概ね横ばい(0.01ポイント低下)。新規求人数は建設、小売、運輸などの求人減から2ヶ月連続で減少。
- 個人消費** ～ やや弱含み～  
飲食料品は底堅いものの、衣料品やブランド品など高額商品が不振でやや弱含み。家電は薄型テレビが堅調に推移。

## 3. 地域経済のトピックス

- 原油・原材料価格について、製品価格への転嫁が困難、転嫁出来ても上昇スピードに追いつかない企業が増加。
- 一次産業では、イチゴやサクランボ等のハウス栽培で暖房温度を抑制したことにより出荷時期の遅れを招いたり、イカ・カニ漁で出漁回数削減の動きが出始めるなど影響が広がってきている。
- また、原材料のうち、建設資材向けの鋼板については、価格だけでなく調達に支障が出始めているところもある。
- 政府系中小企業金融機関の本年1～3月の融資申込実績は大幅に増加しているが、その大半は後ろ向きの運転資金。融資相談に来る企業の7、8割は決算が悪化。

# 東北経済産業局管内の経済動向



東北地域の経済は、横ばいの動きとなっている。

### 1. 全体の動向

業況は、原油・原材料高によるコスト増、建築需要の低迷、受注減等から、製造業大企業では一般機械、パルプ・紙、鉄鋼等、製造業中小企業では一般機械、窯業、食品等が悪化。非製造業も個人消費の低迷、原油高から小売、運送等が悪化。ただし、先行きは全体で見ると改善と見込む企業が増加。生産は横ばい傾向。設備投資は19年度に比べ弱いものの総じて堅調な計画。雇用は有効求人倍率が低下傾向。個人消費は一部に持ち直しの動きがあるものの弱含み。全体として横ばいの動き。

### 2. 個別の動向

#### (1)生産 ～ 横ばい傾向～

電子部品・デバイス、輸送機械を中心に堅調に推移。

#### (2)設備投資 ～ 19年度に比べ弱いものの総じて堅調な計画～

19年度は製造業を中心に積極的な動きであったものの、20年度計画は減少の見込み。

#### (3)雇用情勢 ～ 有効求人倍率は、低下傾向～

4月の有効求人倍率は0.66倍(前月比0.01ポイント低下)となり、19年1月をピークに低下傾向。新規求人倍率は1.0倍(前月比0.02ポイント上昇)と3か月ぶりに1.0を上回る。

#### (4)個人消費 ～ 一部に持ち直しの動きがあるものの、弱含み～

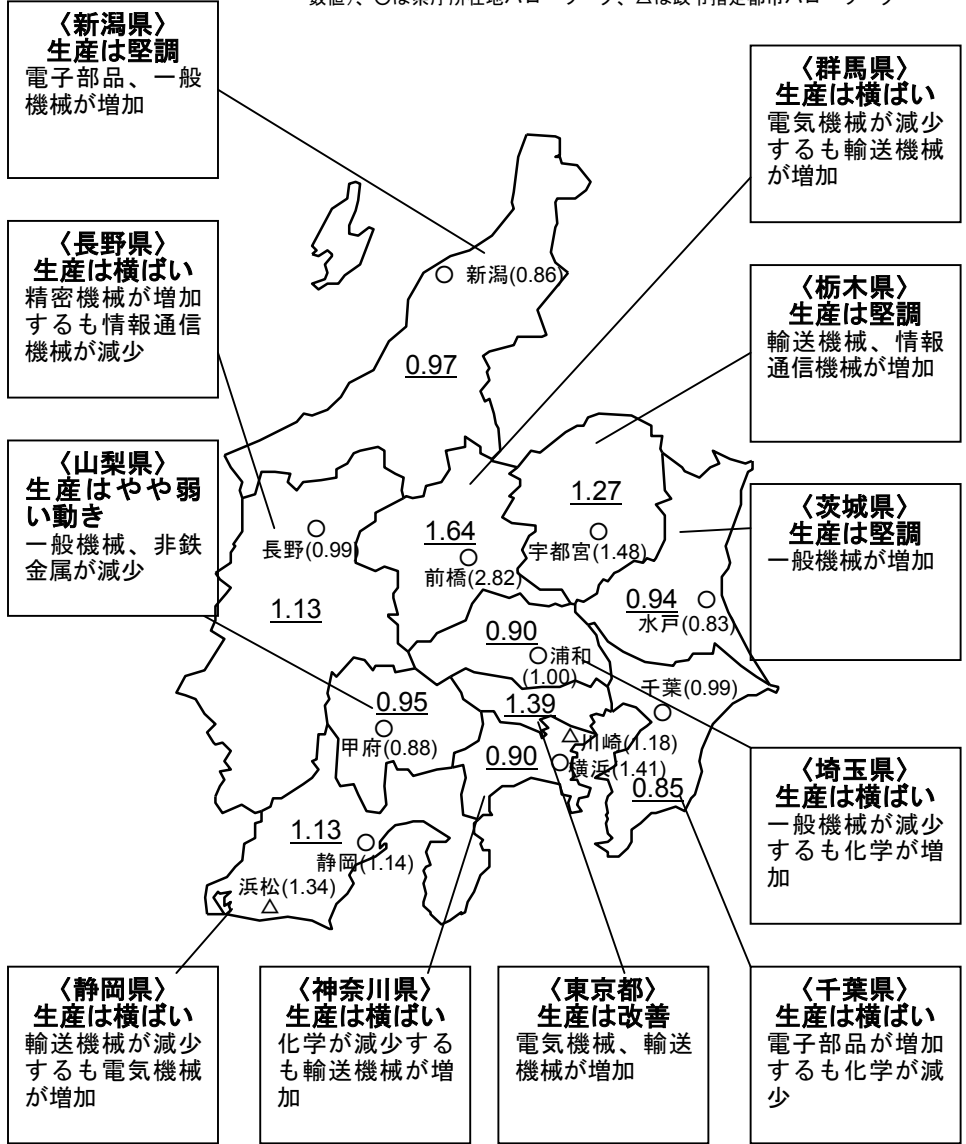
デジタル家電、携帯電話の販売が好調であることなど一部に持ち直しの動きがあるものの、弱含み。

### 3. 地域経済のトピックス

- 原油・原材料価格の上昇により企業収益を圧迫。製品価格への転嫁は困難。資材高で建築着工へも影響。
- 原材料高、燃料高に伴い運転資金需要が増えている一方で、金融機関の貸し出し態度については弱含みとなってきている。

# 関東経済産業局管内の経済動向

※下線数字は都県の4月有効求人倍率(季調値)、( )内は4月有効求人倍率(原数値)、○は県庁所在地ハローワーク、△は政令指定都市ハローワーク



## 関東地域の経済は、概ね横ばいで推移している。

### 1. 全体の動向

業況は、大企業製造業は、生産が堅調に推移するものの、原油・原材料価格の高騰による収益への影響は拡大、一部に外需の需要減や円高による為替差損も見られる。中小企業製造業は、原材料価格の高騰が更に収益を圧迫するも製品価格への転嫁が進まず、総じて厳しい状況。

非製造業は、家電量販店など一部の業種が引き続き好調な一方、百貨店は伸び悩み、建設業や不動産業などでは建設資材の高騰等から収益の悪化が見られるなど厳しい状況。

### 2. 個別の動向

#### (1)生産 ～ 横ばい傾向～

輸送機械、電子部品、鉄鋼業が堅調に推移しているものの、一般機械の一部や化学工業で弱い動き。

#### (2)設備投資 ～ 横ばい傾向～

大企業は総じて高水準で推移しているが、投資の一巡や市況の不透明感から減速の気配、中小企業は慎重姿勢。

#### (3)雇用情勢 ～ 弱い動き～

完全失業率はやや上昇、有効求人倍率は低下傾向。

#### (4)個人消費 ～ やや弱い動き～

家電量販店、コンビニが堅調に推移しているものの、大型小売店販売が伸び悩み。消費者の生活防衛意識が高まり、弱い動き。

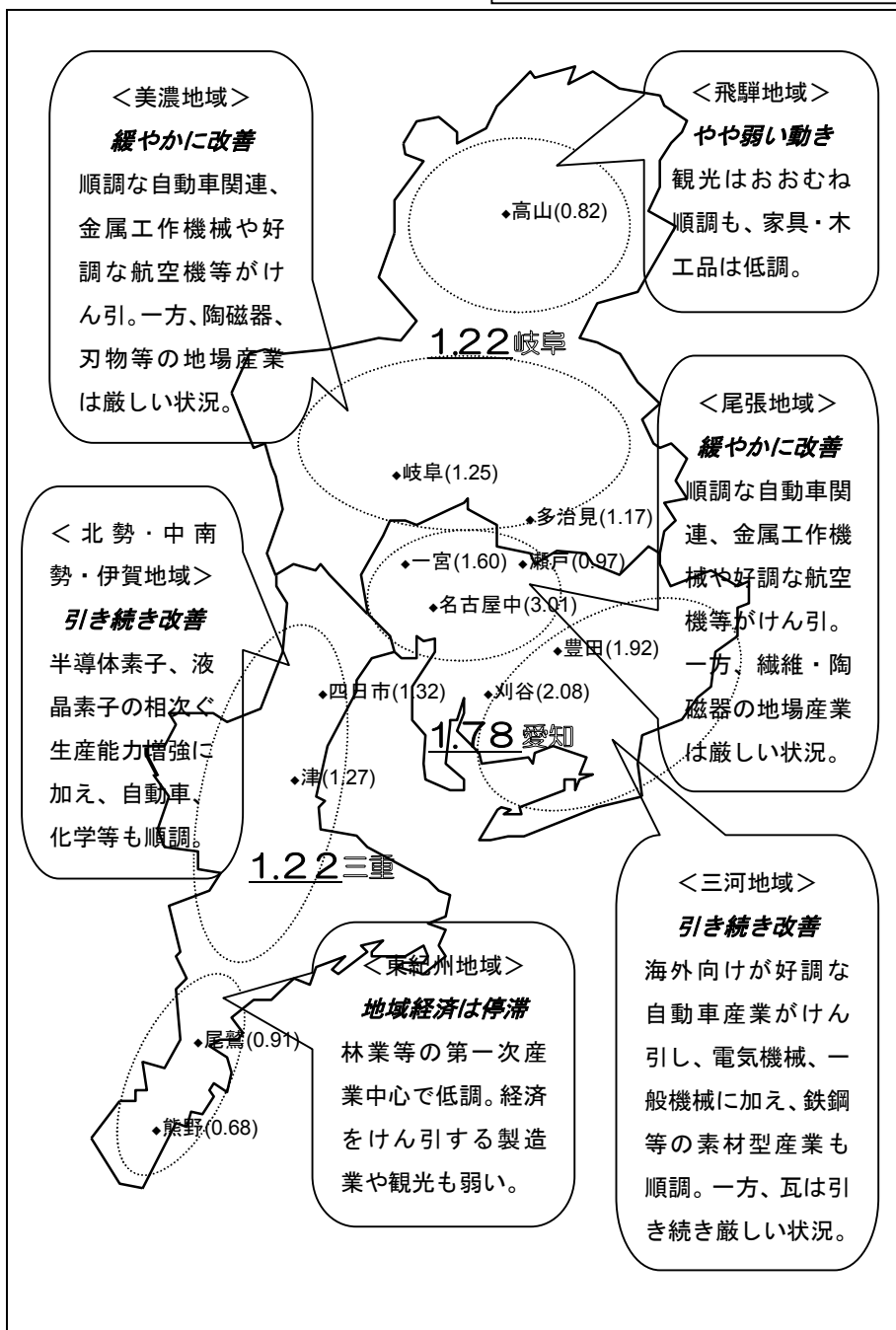
### 3. 地域経済のトピックス

○原油・原材料価格の高騰により企業間での価格交渉が激化しているが、転嫁は困難で総じて採算が悪化。価格上昇は今後も続くとみる企業が多く、食料品・光熱費の上昇等から非製造業への影響も拡大。

○中小企業の資金需要は、やや弱含み。原材料価格の高騰や建設需要の減退等により中小企業の業況が悪化しており、金融機関の貸出態度には、一部に慎重な姿勢がみられる。

○甲州ブドウから醸造したワインを国産で初めてEU圏(英仏)へ輸出。

## 中部経済産業局（東海地域）管内の経済動向



東海地域の経済は、一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに改善している。

### 1. 全体の動向

業況は、全体では緩やかな改善が続く。ただし、電子部品・デバイスでは市況が悪化。部材産業や中小企業等では原油・原材料高騰から収益が圧迫されており、また、内需型産業は需要低迷により引き続き厳しい状況。

### 2. 個別の動向

(1)生産 ～ 緩やかな増加傾向ながら、一部に弱い動きがみられる～

自動車関連は米国向け減少を新興国がカバーし、工作機械も外需中心に、共に高水準を維持。電子部品・デバイスは市況の影響から弱い動き。

(2)設備投資 ～ 増加している～

自動車、半導体・液晶素子関連では能力増強投資等が引き続き高水準。

(3)雇用情勢 ～ 労働需給が引き締まっている～

製造業、サービス業とも人材不足感が強い。技術系の人材確保難は深刻。

(4)個人消費 ～ 持ち直している～

引き続き持ち直しの動きがみられるものの、ガソリンや食料品の値上がりから消費マインドは低下、高級ブランド品や宝飾品の販売に陰り。

### 3. 地域経済のトピックス

○中小企業への民間金融機関の貸し出し姿勢に大きな変化はないが、業績悪化企業の増加に伴い政府系金融機関の活用増加の動き。

○原油・原材料価格高騰が止まらず、多くの業種で収益を圧迫。さらに自動車用鋼板、特殊鋼、触媒等に必須のレアメタルについては価格がさらに高騰。今後の価格動向など、調達環境に注視が必要。

○新名神開通（2/23 亀山－草津）及び東海北陸自動車道全通（7/5 予定）による東海と関西、東海と北陸の経済圏がより緊密化。高速道路のメリットを活かした新規企業立地や観光客の増加に期待。

# 中部経済産業局（北陸地域）管内の経済動向

北陸地域の経済は、概ね横ばいとなっている。

## 1. 全体の動向

製造業においては、繊維、金属製品などで低調、一般機械は高水準横ばいで推移し、電子部品・デバイス、高い水準にあるも低下傾向となっており、概ね横ばい傾向。非製造業においては、小売業では諸物価上昇から消費マインドが低下するなど、低調に推移。

## 2. 個別の動向

### (1)生産 ～ 横ばい傾向～

一般機械は建機等好調から高水準横ばい。電子部品・デバイスはデジタル家電は好調も携帯電話向けが振るわず、高水準も低下傾向。繊維、金属製品は低位横ばい、化学はジェネリック医薬品等が好調に推移。

### (2)設備投資 ～ 概ね横ばい～

一般機械（建機等）などに生産能力増強等の投資がみられるも、概ね増産対応が一巡。先行きの不透明感から、投資を抑制する動きも。

### (3)雇用情勢 ～ 改善に足踏み～

地方においては優秀な人材の確保は依然として困難も、求人側に収まりがついてきており、人手不足感を訴える企業は以前より減少。

### (4)個人消費 ～ 弱含み～

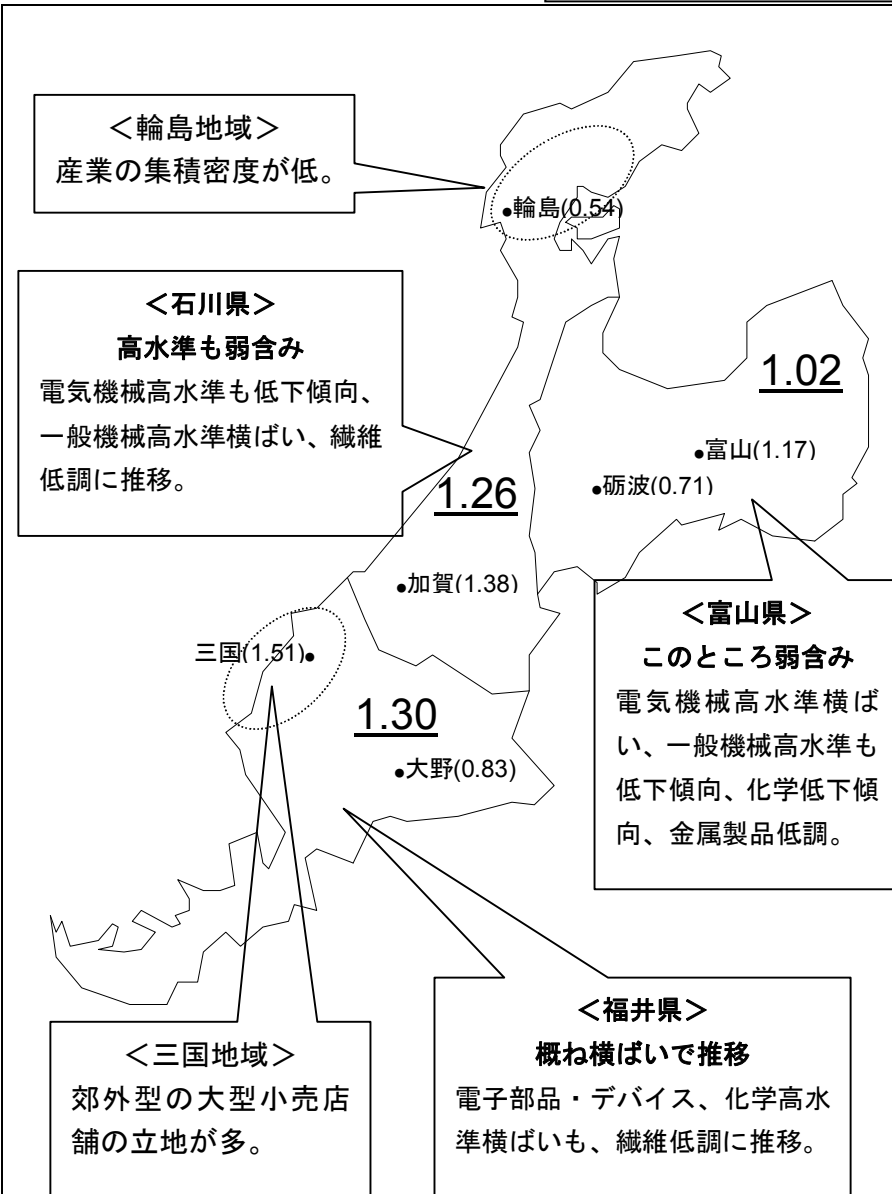
新型車販売や安近短の観光に動きがみられるも、原油、原材料価格高騰に伴う物価上昇などから、消費者に生活防衛意識の高まりがみられ、総じて低調に推移。

## 3. 地域経済のトピックス

○原油価格が上昇、原材料はアルミ地金等が高止まりのなか、燃料、樹脂等の高騰影響を訴える声が拡大。今後の鋼材の大幅値上がり影響や、電気料金の値上げ影響を危惧する声も有。

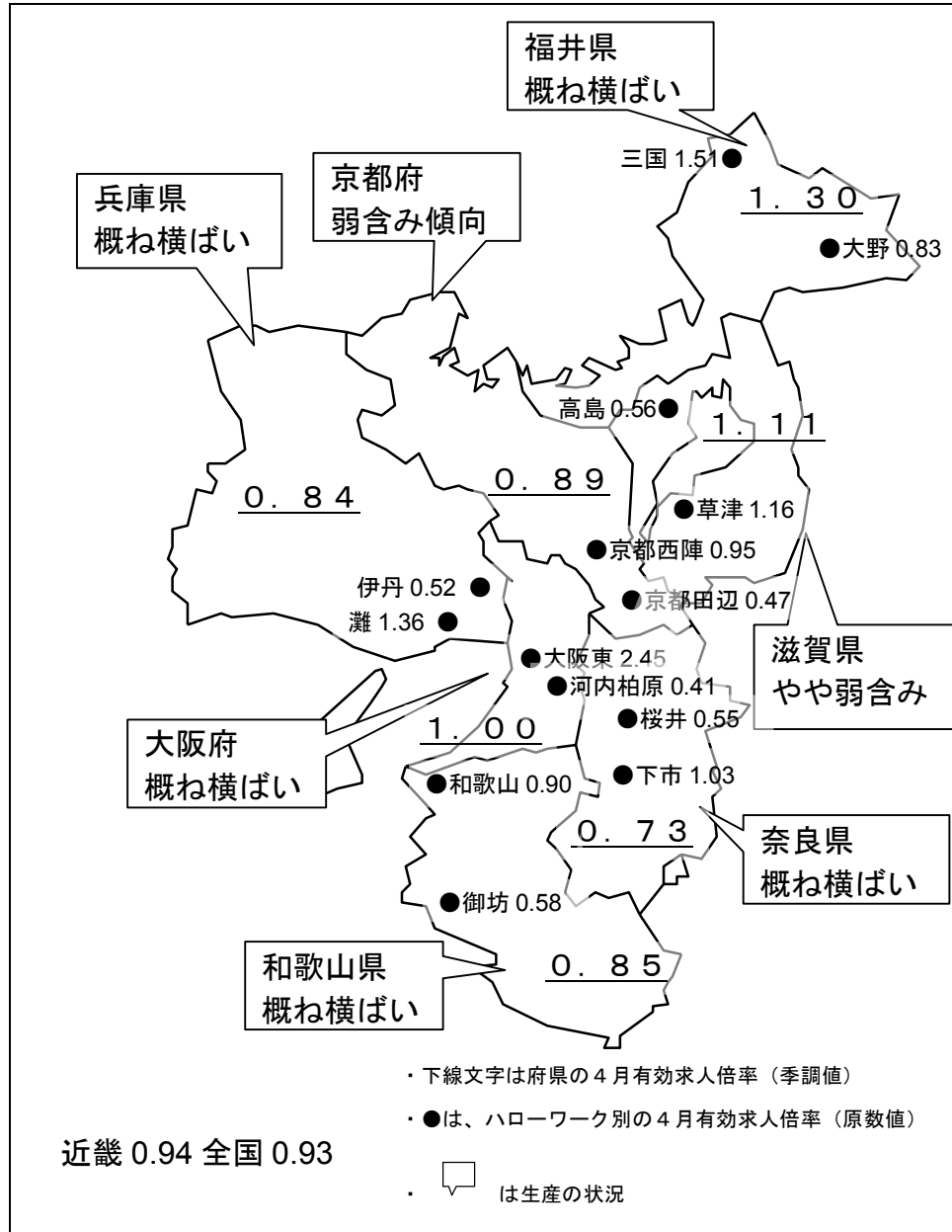
○金融機関貸出態度は、総じて緩和的に推移しているも、一部、繊維等経営体力が脆弱化している中小零細企業には慎重になっている声も有。

○北陸地域への観光客数は、昨年の能登地震等の影響を払拭し、回復。被害の大きかった温泉地でも宿泊客数がほぼ平年並みに回復。



下線数字は県別4月有効求人倍率(季調値)  
( )内は4月有効求人倍率(原数値)

# 近畿経済産業局管内の経済動向



近畿地域の経済は、全体では緩やかに改善しているが、一部に弱い動きが見られる。

## 1. 全体の動向

大企業の積極的な設備投資やアジア向けの輸出に支えられて緩やかに改善しているが、米国経済減速や原油・原材料価格の高騰により中小企業の企業収益が悪化、住宅市場の低迷など一部に弱い動きが見られる。先行きも、原油・原材料価格の動向により中小企業を中心に業況の更なる悪化が懸念される。

## 2. 個別の動向

### (1) 生産 ～横ばい～

新興国などの世界的な需要増加を背景に建設機械や鉄鋼などが好調だが、携帯電話などにやや弱い動きがみられ、総じて横ばい。

### (2) 設備投資 ～大企業の積極的な設備投資により増加～

景気先行き不透明感から中小企業に慎重な姿勢が見られるが、大阪湾岸への薄型テレビ用パネル工場新設や鉄鋼業の能力増強投資など伸びが継続。

### (3) 雇用情勢 ～改善に足踏み～

新卒採用では売り手市場が継続しているものの、ハローワークにおいては、派遣請負適正化による派遣求人の減少もあり求人数は減少している。

### (4) 個人消費 ～概ね横ばい～

薄型テレビ・エアコン等は好調だが、賃金が横ばい、エネルギー、食品等の物価上昇を背景に節約の動きがみられ、概ね横ばい。

## 3. 地域経済のトピックス

○原油・原材料の急激な高騰により、金属製品、機械部品等多くの中小企業において、価格転嫁が極めて困難な状況で収益を圧迫。また、好調な輸出企業においても北米経済の減速による影響を懸念。

○金融機関の融資姿勢は、二極化しており、業績のよい企業には積極的だが、建設業等の中小企業には厳格化。

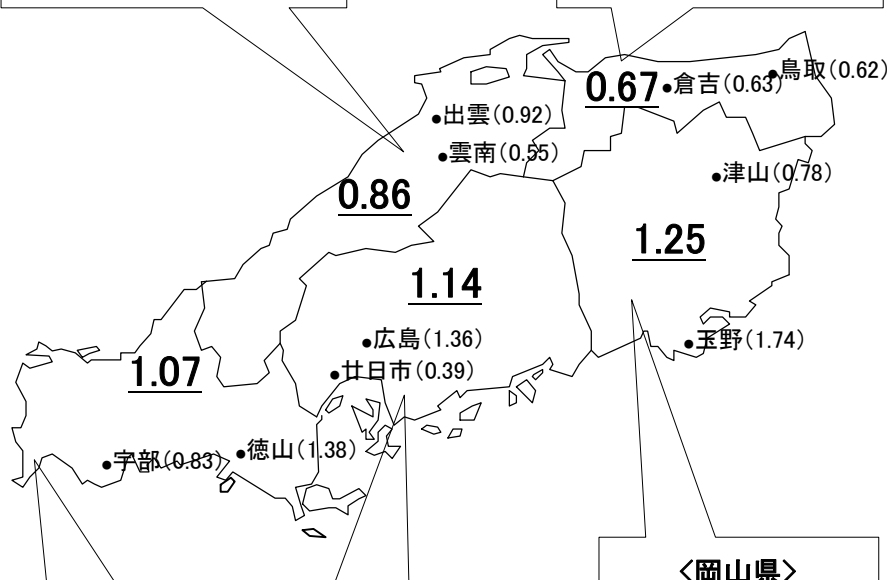
# 中国経済産業局管内の経済動向

## 〈島根県〉 横ばい傾向

生産は精密機械が上昇した一方、金属製品が低下するなど、横ばい。  
雇用はやや弱い動き。

## 〈鳥取県〉 やや弱い動き

生産は一般機械、電子部品・デバイスが低下するなど、弱い動き。  
雇用は弱い動き。



## 〈山口県〉

**緩やかな改善傾向**  
生産は電気機械が上昇した一方、一般機械が低下するなど、横ばい。  
雇用は改善の動きに足踏みが見られる。

## 〈広島県〉

**緩やかな改善傾向**  
生産は食料品・たばこが上昇した一方、電子部品・デバイスが低下するなど、横ばい。  
雇用は改善の動きに足踏みが見られる。

## 〈岡山県〉

**緩やかな改善傾向**  
生産は電気機械が上昇した一方、電子部品・デバイスが低下するなど、横ばい。  
雇用は改善の動きに足踏みが見られる。

中国 1.07 全国 0.93

下線数字は県の4月有効求人倍率(季調値)  
( )内は4月有効求人倍率(原数値)

中国地域の経済は、概ね横ばいで推移している。

### 1. 全体の動向

業況は、鉄鋼・化学ではフル操業ながら原材料高から、また一般機械の一部では設備投資需要の減速感などから、総じて弱い動き。小売では、物価上昇による消費者の生活防衛意識から消費マインドの低下を懸念。

### 2. 個別の動向

#### (1)生産 ～ 横ばいながらも一部に弱い動き ～

生産は鉄鋼、船舶などは依然堅調であるが、一般機械の一部では設備投資需要に減速感がみられ、原油・原材料高や改正建築基準法の影響も続いていることから、横ばいながらも一部に弱い動き。

#### (2)設備投資 ～ 堅調な動き ～

製造業では輸送機械、非製造業でも小売業等で堅調な動きであるが、中小企業においてはやや減速感。

#### (3)雇用情勢 ～ 改善傾向に足踏み ～

有効求人倍率は全国を上回るも一進一退。一方、団塊世代の定年退職による人手不足感などから採用増加の動きは継続。

#### (4)個人消費 ～ 概ね横ばい ～

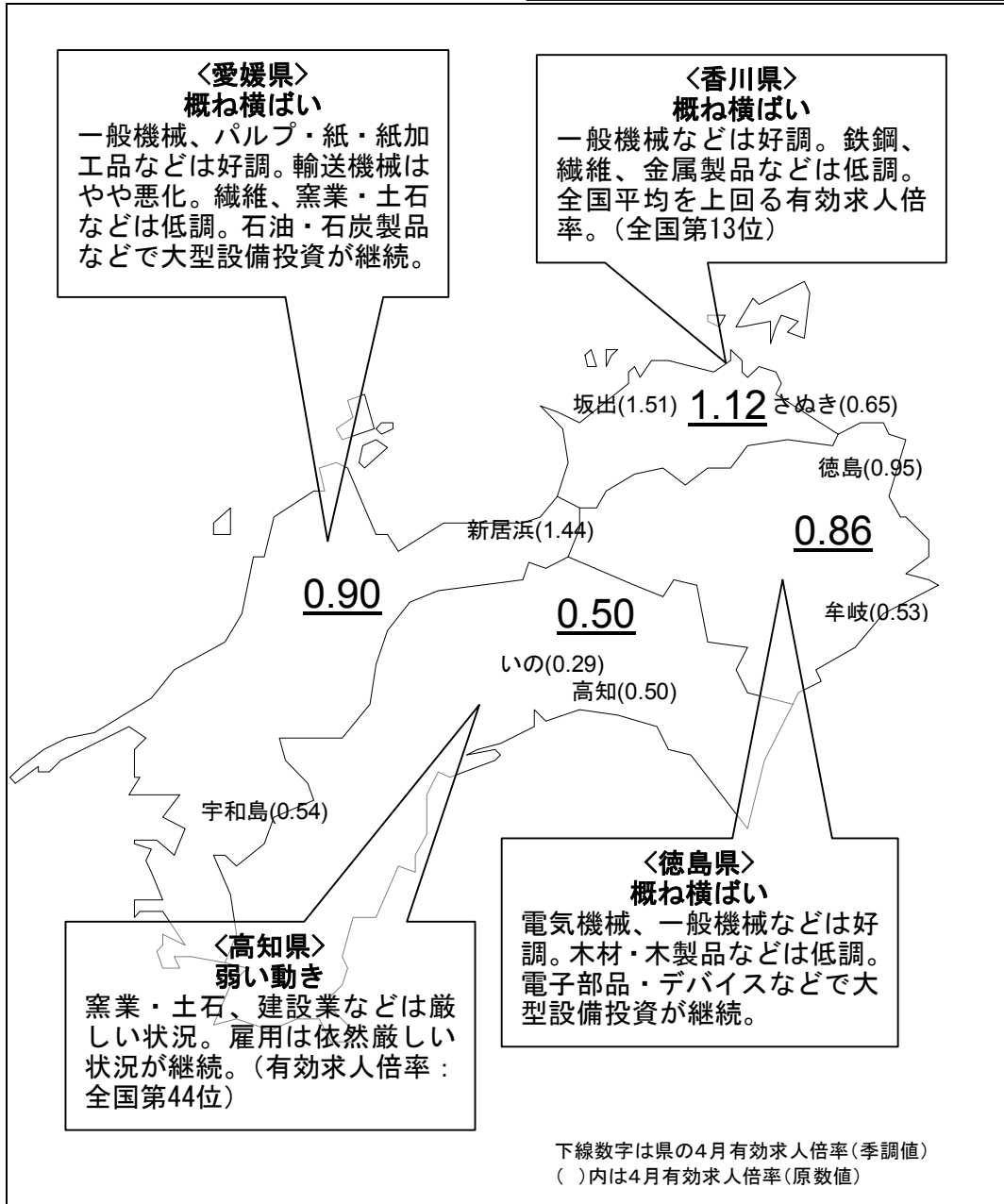
高額商品の売れ行き鈍化や消費者の節約意識の高まりなどで、概ね横ばい。「母の日」商戦も盛り上がりを欠く。

### 3. 地域経済のトピックス

- 原油・原材料高の影響が続いており、価格転嫁が進まず、依然として収益を大きく圧迫。2008年3月期の上場企業決算(58社)は、約8割が増収を達成するも半数が減益。
- 中小企業の業況悪化に伴い金融機関の与信審査が厳格化。特に建設・不動産関連では資金繰りの悪化が目立ち、融資に厳しさあり。
- 山陰老舗旅館の破産相次ぐ。島根県「玉造温泉」では、石見銀山の世界遺産登録で県内観光客数は増加傾向ながら、団体需要や客単価の低下などにより、本年5月に老舗旅館2社が同時破産。
- 近畿圏の液晶メーカー大型設備投資が、中国地域の関連業種に装置受注の波及効果。また、コンビナート素材メーカー等が、液晶パネルの需要増で原料の樹脂や偏光板・フィルムの生産設備を相次いで増強。



# 四国経済産業局管内の経済動向



四国地域の経済は、概ね横ばいとなっている。

## 1. 全体の動向

業況は一部の業種で好調を維持しているものの、全体で見ると弱い動き。製造業では、一般機械などは、国内外の旺盛な需要に支えられ、引き続き好調に推移。原油・原材料価格の上昇の影響により、化学、繊維などは厳しい状況が継続し、鉄鋼、輸送機械はやや悪化。非製造業では、コンビニ販売などは堅調に推移。大型小売店販売は横ばい、乗用車販売は弱い動きが継続。建設業は、厳しい状況が継続。

生産、個人消費は横ばい傾向、設備投資、雇用はやや弱含みとなっており、全体として四国地域の経済は、概ね横ばい。

## 2. 個別の動向

### (1)生産 ～ 横ばい傾向にある。～

輸送機械、電気機械が、国内外の旺盛な需要を反映し、高水準で推移。一般機械、鉄鋼、化学も好調に推移。一方、窯業・土石、繊維は需要の減少などから弱い動き。

### (2)設備投資 ～ やや弱含みとなっている。～

今年度の投資計画は、生産能力増強を目的とする大型投資が引き続き行われている一方、前年度の大型投資の反動減などによりやや弱含み。

### (3)雇用情勢 ～ やや弱含みとなっている。～

一部地域では、依然厳しい状況が続いているものの、需要が好調な業種が集積している地域では、採用に積極的な動き。

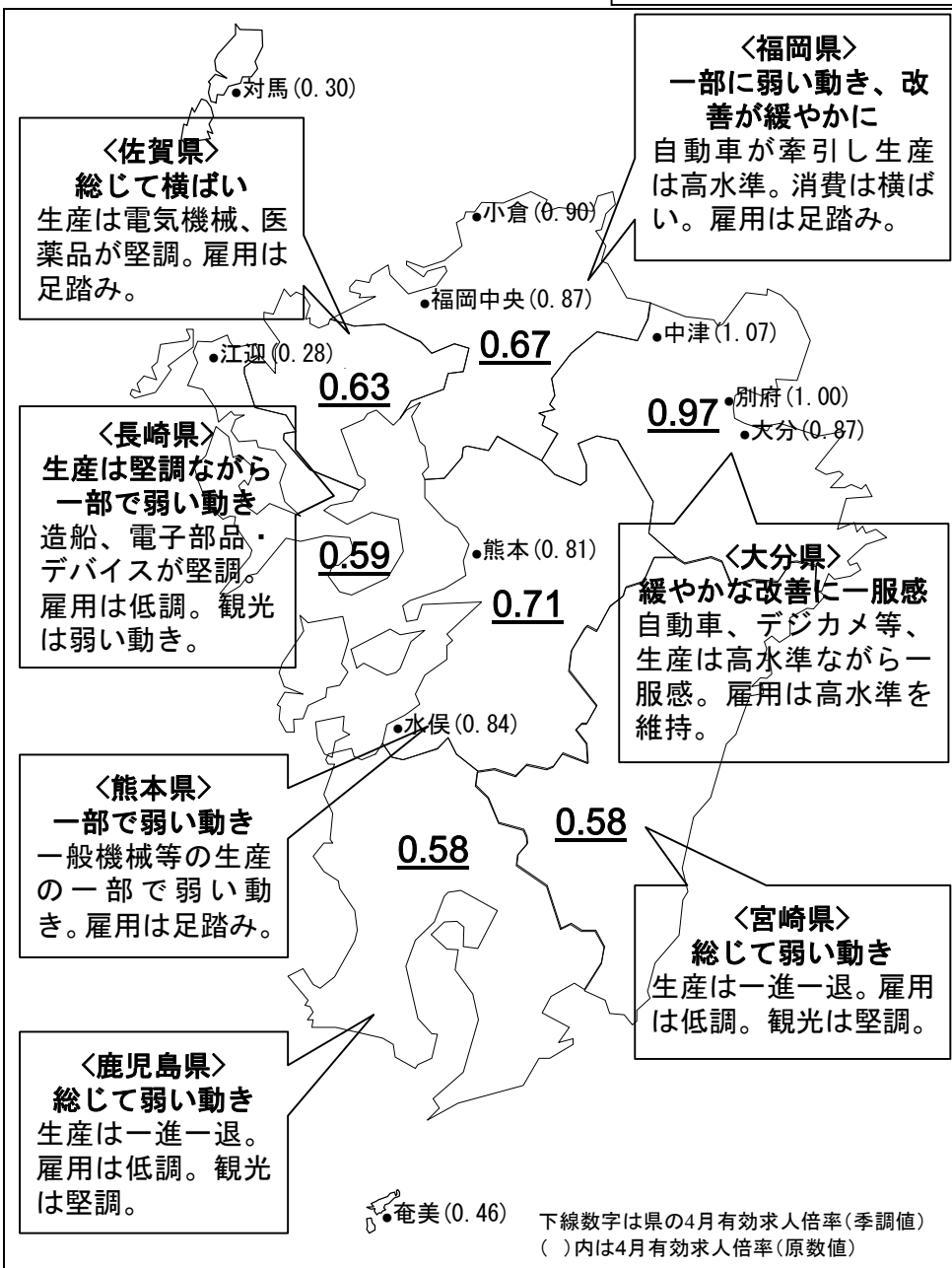
### (4)個人消費 ～ 概ね横ばいとなっている。～

コンビニ販売は堅調。大型小売店販売は横ばい、旅行、自動車販売は弱い動き。

## 3. 地域経済のトピックス

- 原油・石油製品、原材料価格高騰の影響が大きく、収益を圧迫。影響度も拡大。一部企業を除き、価格転嫁も困難。
- 円高により、一部企業で収益を圧迫。
- 中小企業金融は、特に小規模企業で後ろ向きの小口運転資金需要が中心となっており、一部地域を除き、建設業への貸し出し態度に厳しさがみられる。

# 九州経済産業局管内の経済動向



九州地域の経済は、概ね横ばいで推移している。

## 1. 全体の動向

輸出や設備投資が牽引し、生産は高水準で推移しているものの、一部で生産調整の動きもみられ、このところ横ばい傾向。原油・原材料価格の高騰などにより、企業の業況感は製造業を中心に悪化。加えて、生活必需品の値上がりを背景に消費の低迷感が広がっている。

## 2. 個別の動向

### (1) 生産 ～ 横ばい傾向 ～

自動車関連は輸出環境の先行き不透明感から一部で慎重な動きがみられ、半導体関連はこのところ在庫圧縮の動きもみられる。

### (2) 設備投資 ～ 製造業を中心に高水準 ～

自動車関連などの製造業で新規立地や能力増強の動きが続いており、当面、高水準を維持。

### (3) 雇用情勢 ～ 改善に足踏み ～

大分県は有効求人倍率が高水準を維持しているものの、他の県では改善に足踏み。一方で、中小製造業では大企業の採用活発化の影響等もあり、引き続き、技術系人材確保が厳しいとの声が聞かれる。

### (4) 個人消費 ～ このところ低調な動き～

コンビニ販売額が前年を上回ったものの、大型小売店・家電・旅行取扱高のほか、乗用車販売台数も前年を下回るなど、このところ低調な動き。

## 3. 地域経済のトピックス

- ・ 原油・原材料価格高騰の影響は、幅広い業種で収益面を圧迫。化学などでは生産調整の動きも一部で見られる。また、ガソリンや食料品等の値上がりによる消費マインドの低迷を指摘する声が多くなっている。
- ・ 九州地域の中小企業の金融環境は、地域金融機関の再編や金融機関の融資条件の厳格化もあり、低迷が続く建設業や小売業を中心に厳しい状況となっている。

# 沖縄経済産業部管内の経済動向

沖縄地域の経済は、概ね横ばいとなっている。

## 1. 全体の動向

入域観光客数は前年を上回って推移しているものの、観光需要の先行きに不透明感。製造業では、原油及び原材料価格の高騰により、厳しい業況。非製造業においても、仕入値及び輸送費等の上昇によるコスト増が経営を圧迫。個人消費は、全体としては概ね堅調に推移しているものの、物価上昇が消費者心理へ与える影響が懸念されるところ。

## 2. 個別の動向

### (1)生産 ～全体として弱含みの動き。～

食料品、金属製品及び石油製品は概ね横ばい。窯業・土石及び鉱業は下降傾向。全体としては、弱含みの動き。

### (2)設備投資 ～全体として横ばい。～

製造業は、製造機械の更新投資などが主。非製造業は、ホテルの新設・改装、小売の店舗新設等の動きはあるものの、全体として横ばい。

### (3)雇用情勢 ～概ね横ばい。～

有効求人倍率は、0.4倍前半で推移。完全失業率は、7%台前半から6%台後半で推移しており、雇用情勢は概ね横ばい。

### (4)個人消費 ～全体としては概ね堅調。一部に弱い動き。～

スーパー、コンビニエンスストアは堅調。大型小売店販売は弱含み。家電販売は持ち直しの動き。新車自動車販売は概ね横ばい。

## 3. 地域経済のトピックス

- ① 観光業からは、ホテル増に伴う競争激化等の懸念材料に加えて、今後、景況感の悪化による旅行控えを危惧する声。
- ② 中小企業向け融資は堅調な伸びだが、金融機関は、今後の景気動向が中小企業の資金需要に与える影響を懸念。
- ③ 原油及び原材料価格の高騰により、業種・規模を問わず、大半の企業の経営環境が悪化。特に、輸送コスト上昇が離島の生活を直撃するおそれ。

